



空きスペースがまちを動かす



皆さんは、体育館や公民館など、市の施設を一度は利用したことがありますよね。でも、民間企業の施設はどうでしょう？

今回は蛭遊苑長府製作所記念館、やまぎん史料館、下関南部町郵便局で「**空きスペースを有効利用している**」という噂を耳にし、実際に取材しました。訪れてみると、どの施設でも個人や地域コミュニティ主催のイベントがあり、噂は本当でした！

蛭遊苑の藤吉充館長は「春秋は予約が多いです。1年先の予約も既にあります」と話してくれました。やまぎん史料館の

村田敏彦館長は「皆さんに気軽に利用してほしい」と笑顔で語ります。南部町郵便局での写真展を企画する村田武司さんは「普段、写真展に興味を持たない方にもご覧いただきたい」と期待を込めます。

こうした施設の有効利用は、利用者にとっては歴史情緒あふれる場所での特別な体験になり、観覧者も見込める。管理者にとっては、空きスペースが華やかになり、建物が生きる。**これって地域にぎわいが生まれているってことでは？！** **空きスペースの可能性**を肌で実感しました。



喫茶店と日本庭園で一息



写真の魅力がより際立つ



絵画展(過去開催分)



写真展(過去開催分)



イベントチラシがいっぱい！



大正時代の建築物



最古の現役郵便局舎



中庭でキャンドルナイト

市立大学SCU

地域魅力拡散し隊



KINAMERI TOMOHIRO

豊浦地域 木滑 知宏 隊員(きなめり ともひろ)

令和5年9月に地域おこし協力隊に着任。空き家を活用して作った、シェアキッチンやカフェ営業を行う。その他にも、多数のイベント実行委員会として活動するなど活躍の場を広げている。

豊浦の資源を生かして
地域とつながる

豊浦に移住してから、「豊浦ぐるぐるキッチン」という施設を立ち上げました。ここでは、飲食店営業に挑戦してみたい方のシェアキッチンや、飲食ブースやワークショップを集めたイベント会場、地域の方々の集いの場など幅広い用途で、皆さんに活用していただいています。

また、不定期ではありますが、私もカフェを営業し、自家製の果実(ヤマモモ)を使ったドリンクを提供しています。炭酸で割ると、爽やかな風味がおいしいです。

実行委員を務めた回遊型アートイベント「TipTie」や、音楽イベント「下関オーガニックビレッジ」などのイベント活動を通じて、多くの方とつながることができました。

今後も定期的に豊浦ぐるぐるキッチンでのイベントを企画したり、新たな空き家の活用にも取り組んだりしていきたいと考えています。



下関市地域おこし協力隊員は
10人です(10月15日現在)